

ペルー共和国ケチュア銅鉱床開発プロジェクトの フィージビリティスタディ（以下「FS」）への移行について

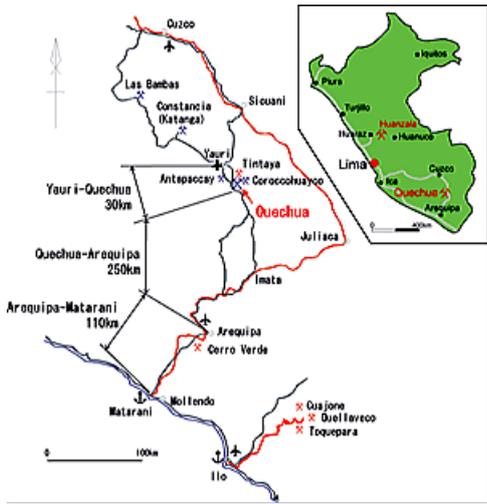
日鉱金属株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目，社長：岡田昌徳）および三井金属鉱業株式会社（本社：東京都品川区大崎一丁目，社長：竹林義彦）の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カッパー株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目，社長：足立吉正，以下「PPC」）は、ペルー共和国ケチュア銅鉱床開発プロジェクト（以下「本プロジェクト」）について、2009年1月からプレFS(FSの前段に当たる予備調査)として、概念設計、生産計画設計、これらに基づく経済性評価等を実施するとともに、追加ボーリングの実施による鉱量計算の精度向上を実施してまいりました。その結果、本プロジェクトが経済性ある開発の可能性が見込まれるものであることから、FSに移行することといたしました。

FSは本年12月から2011年1月まで実施することとしており、最終鉱量計算、設備の基本設計、環境認可取得、経済評価等を行い、最終投資判断が可能となる計画の策定を行う予定であります。

FSの結果を踏まえ、開発を決定した場合、本プロジェクトは、現時点で山命（稼行期間）17年、総生産量は銅130万トン（年平均約7万6千トン）が見込まれております。また、生産される銅精鉱は、PPCグループの製錬所へ供給する予定であります。

PPCでは、本プロジェクトおよびチリ国カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクトを推進し、自山鉱比率の18%から50%超への向上および製錬原料の安定調達を確保することにより、資源の安定供給を図ってまいります。（本プロジェクトの概要は、別紙のとおりであります。）

ケチュア銅鉱床開発プロジェクトの概要

<p>1. FSの概要</p>	<p>①期間： 2009年12月～2011年1月（14ヶ月）</p> <p>②内容： 追加ボーリング、鉱量計算、モリブデン回収可能性追求、選鉱ラボラトリ試験 およびパイロット試験選鉱、設計パラメータ確定、設備・建設基本設計、投資費用の積算、環境認可・開発認可取得等</p> <p>③費用： 約30億円</p>
<p>2. 本プロジェクトの概要</p>	<p>①ケチュア銅鉱床の所在地</p> <p>ペルー共和国の首都リマの南東約700 km，クスコ県エスピナル郡に所在。 標高は4,000m～4,400m。</p>  <p>②鉱区面積： 5,732ha</p> <p>③埋蔵鉱量： 約680百万トン，銅品位0.38% (カットオフ銅品位0.25%)</p> <p>④スケジュール（予定）</p> <p>2009年12月～2011年1月 FSを実施 2010年10月～2011年5月 環境認可取得手続き 2011年 6月～2014年7月 生産設備建設 2014年 8月～ 操業開始 (2030年まで17年間操業，年間約27万トンの銅精鉱（銅量約7.6万トン）を生産)</p>

	⑤開発投資額（概算）	約8.5億米ドル（生産設備等初期投資額）
3. FS等費用の資金調達	事前調査費用、プレFS費用およびFS費用については、PPCの両親会社の引き受けによる新株発行により調達する予定。	